

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年5月15日

予報期間：5月17日～6月16日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

期間のはじめは、全国的に気温がかなり高くなる所が多い見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

東・西日本では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

全般1か月予報

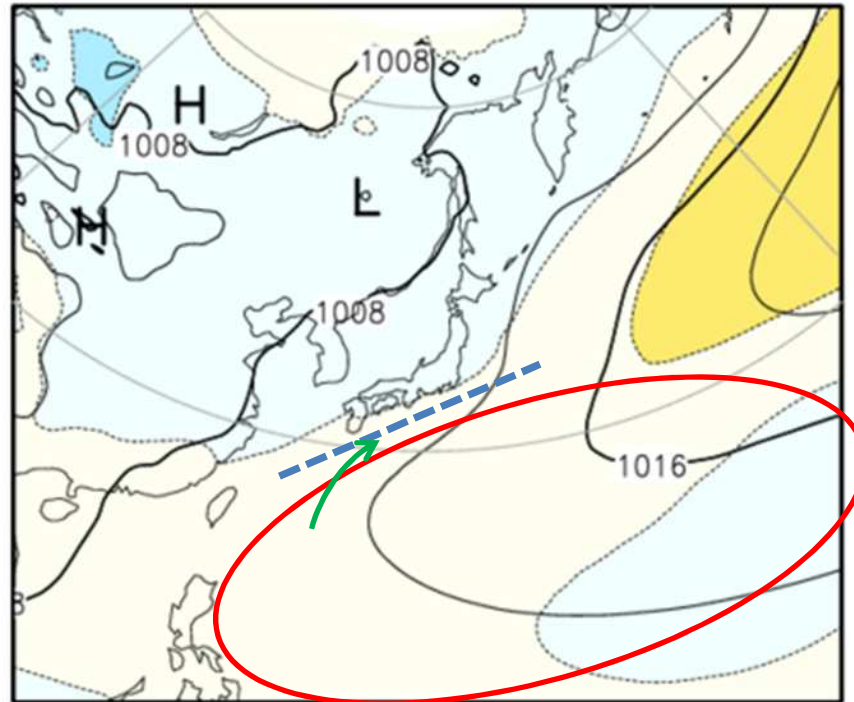
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	30:30:40 30:30:40	40:30:30 40:30:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	20:40:40 20:30:50	40:40:20 50:30:20	
西日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	20:40:40 20:30:50	40:40:20 50:30:20	
沖縄・奄美		10:20:70	40:40:20	20:40:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	20:40:40	20:40:40
東日本	10:10:80	20:40:40	20:30:50
西日本	10:10:80	20:40:40	20:30:50
沖縄・奄美	10:10:80	10:30:60	20:30:50

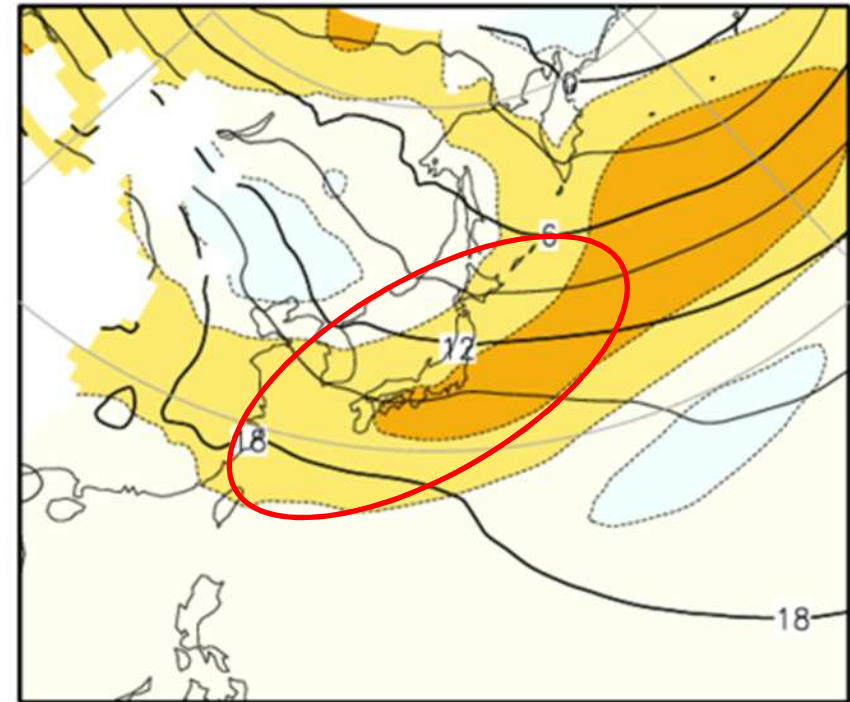
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすいため高く、特に期間のはじめは、かなり高くなる所が多い見込みです。
- ・前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は東・西日本太平洋側では多く、東・西日本日本海側では、平年並か多い見込みです。また、日照時間は、東・西日本太平洋側では少なく、東・西日本日本海側では平年並か少ない見込みです。
- ・沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

海面気圧(1か月)



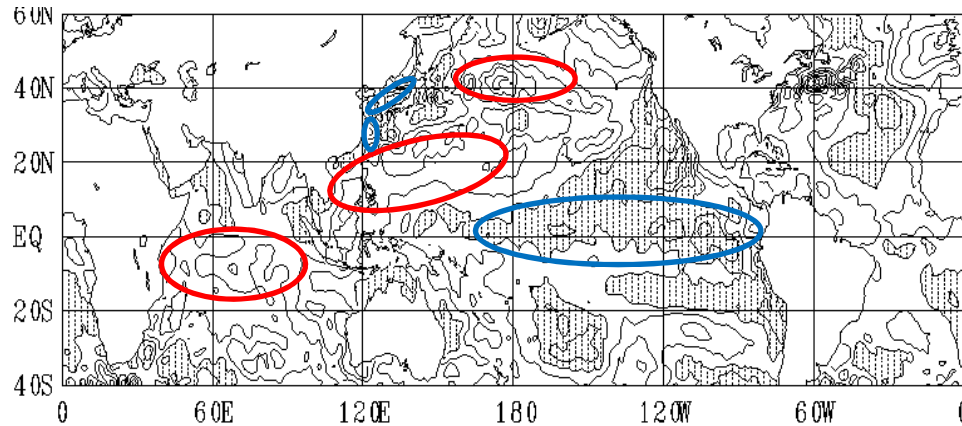
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、日本の南で高く、日本の南東海上で高気圧の西への張り出しが強い見込みです。このため、東・西日本の太平洋側を中心に前線や高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすいでしょう。一方、沖縄・奄美では、高気圧に覆われる時期がある見込みです。

上空約1500mの気温(右図)は、日本付近は、広い範囲で平年より高く、暖かい空気に覆われやすい見込みです。

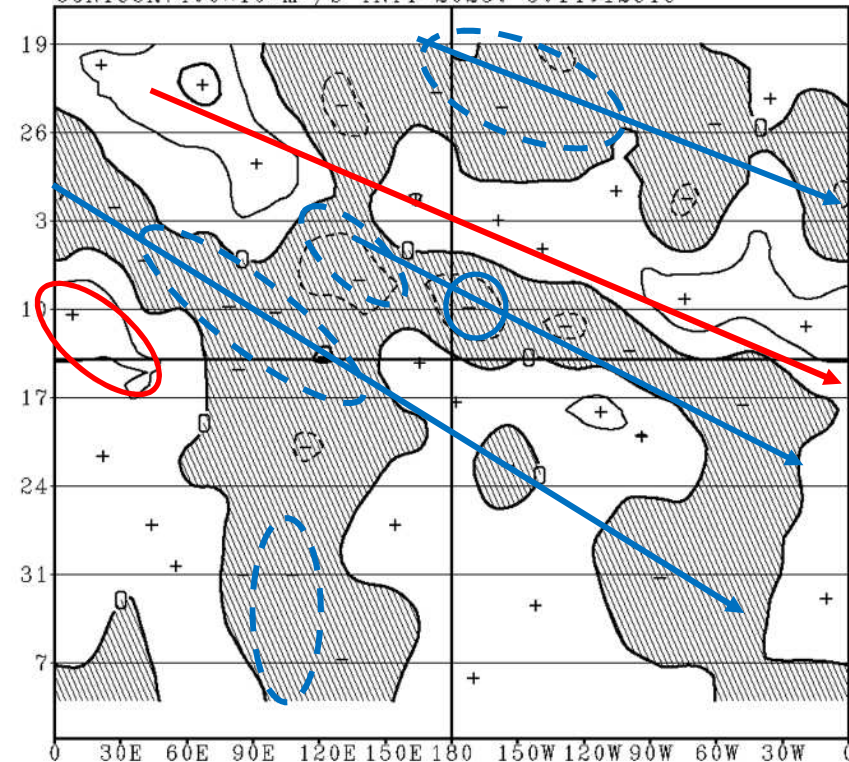
SST偏差



熱帯域では、インド洋南部と南シナ海からフィリピンの東にかけて正偏差。一方、太平洋中部から東部で負偏差。
日本付近では、日本海中部と西部のほか、東シナ海で負偏差、日本海北部で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差

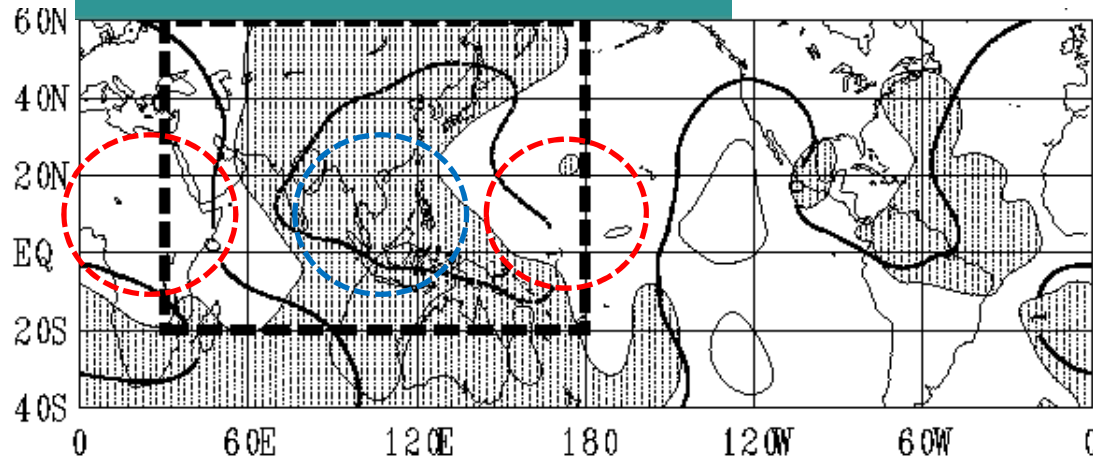
200hPa速度ポテンシャル偏差 (5N-5S) アンサンブル平均
CONTOUR: $4.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ INIT=2025. 5.14.12UTC



期間の前半は、インド洋から東南アジア付近で対流活動が活発のほか、期間の後半は、インドネシア付近で対流活動がやや活発。

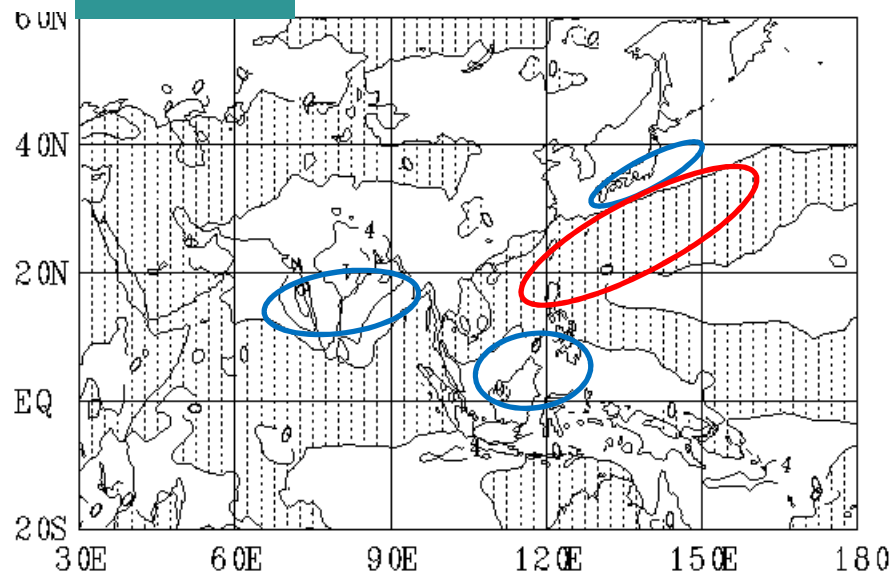
予報資料の解釈 1か月(5/17~6/13)

200hPa速度ポテンシャル



アフリカ付近で上層収束偏差。
また、インド洋東部からフィリ
ピン付近にかけて上層発散
偏差、日付変更線付近では
上層収束偏差だが、偏差は
小さい。

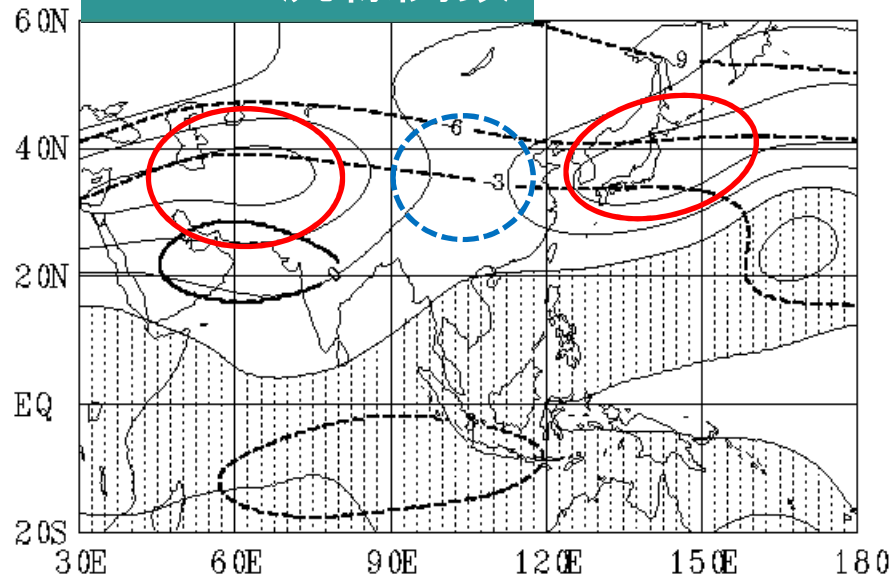
降水量



インド付近とインドネシア付近
で多雨偏差。華南付近と日本
の南で少雨偏差。日本付近で
も東・西日本を中心に多雨偏
差。

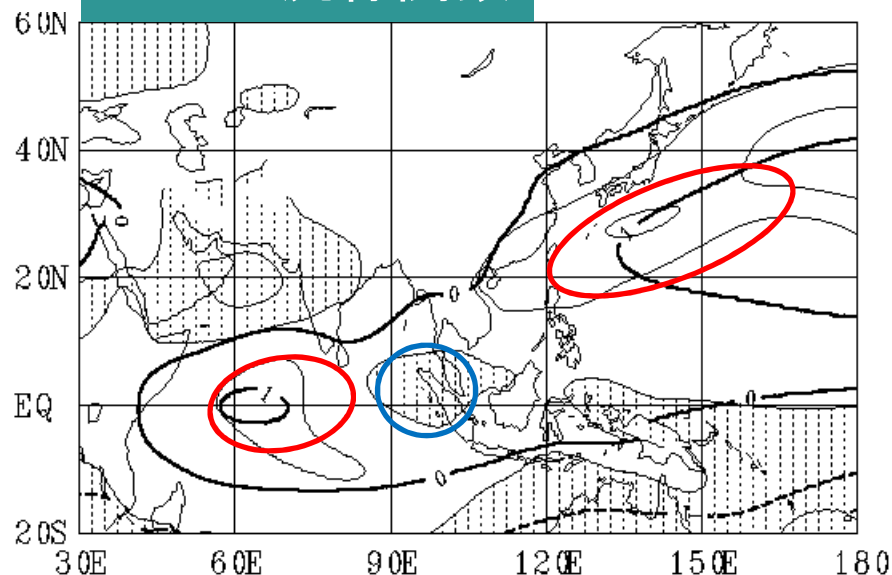
予報資料の解釈 1か月(5/17~6/13)

200hPa流線関数



インドから東南アジア付近の対流活発に対応して、中央アジア付近で高気圧性循環偏差、華北付近で相対的な低気圧性循環偏差。日本付近では、高気圧性循環偏差。

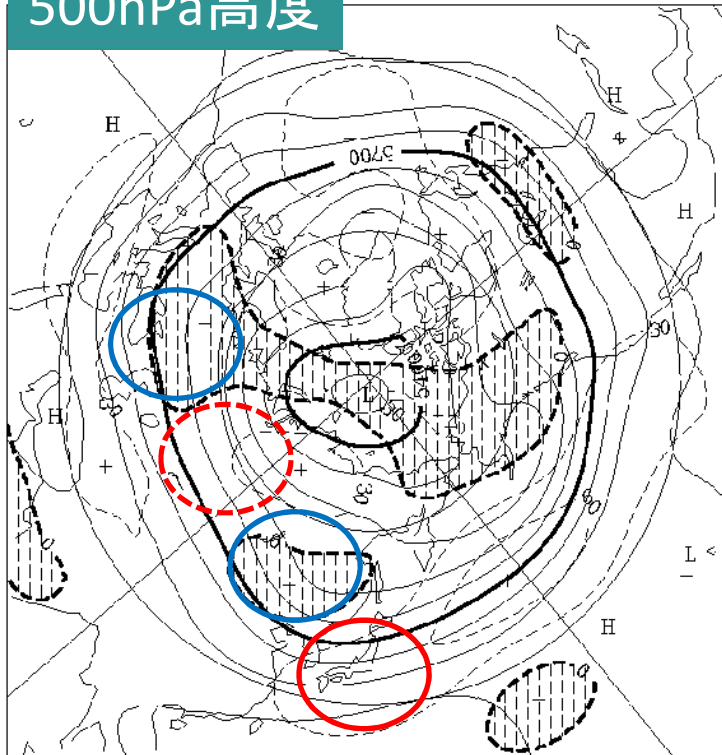
850hPa流線関数



インド洋熱帯域で高気圧性循環偏差、インドシナ半島付近に低気圧性循環偏差、日本の南東海上を中心に高気圧性循環偏差。熱帯の季節内変動に伴うインドから東南アジア付近にかけての対流活動の活発化で、夏のアジアモンスーン循環が強まる時期があることを予測。

予報資料の解釈 1か月(5/17~6/13)

500hPa高度

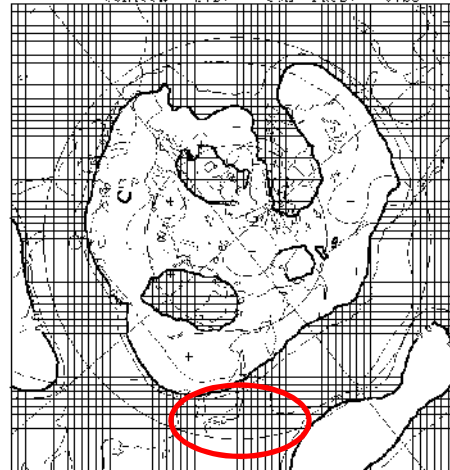
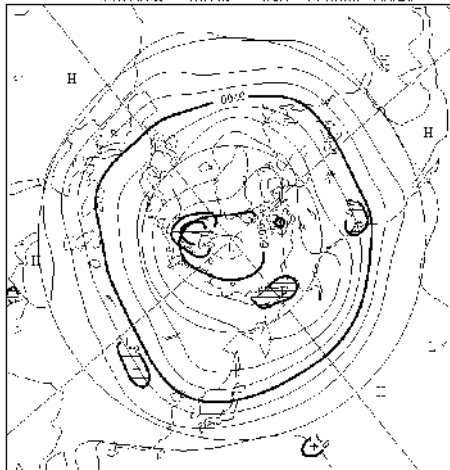


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 0.25

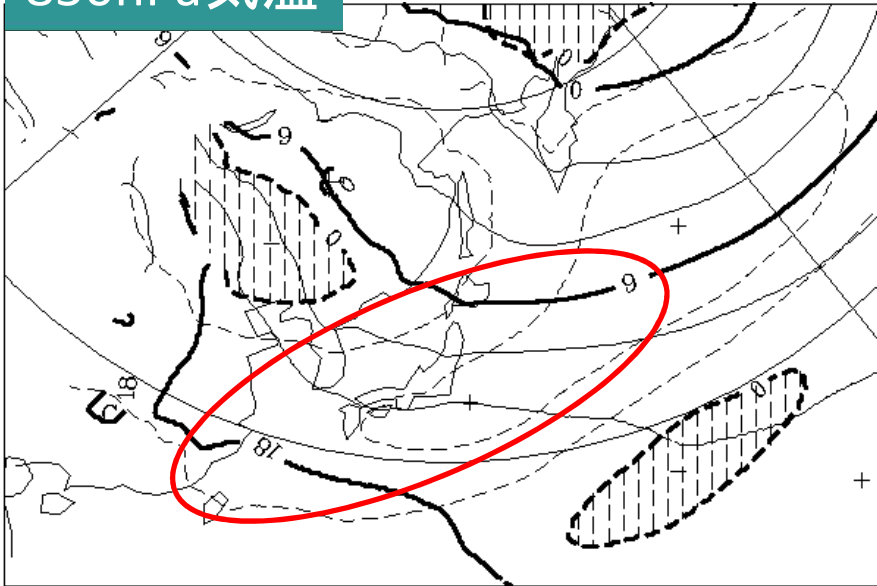


ロシア西部から寒帯前線ジェット気流に沿った波束伝播の影響で、日本付近は正偏差。

日本を含む広い範囲で正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

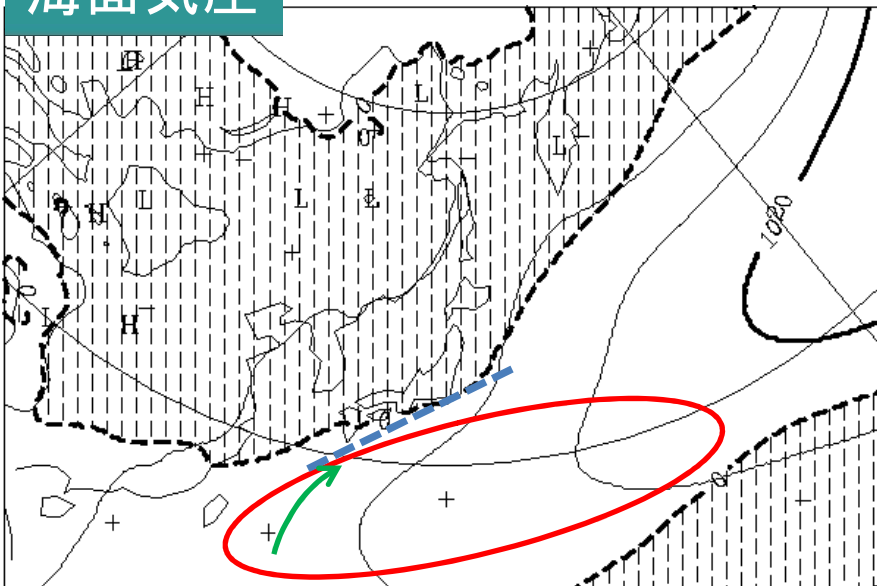
予報資料の解釈 1か月(5/17~6/13)

850hPa気温



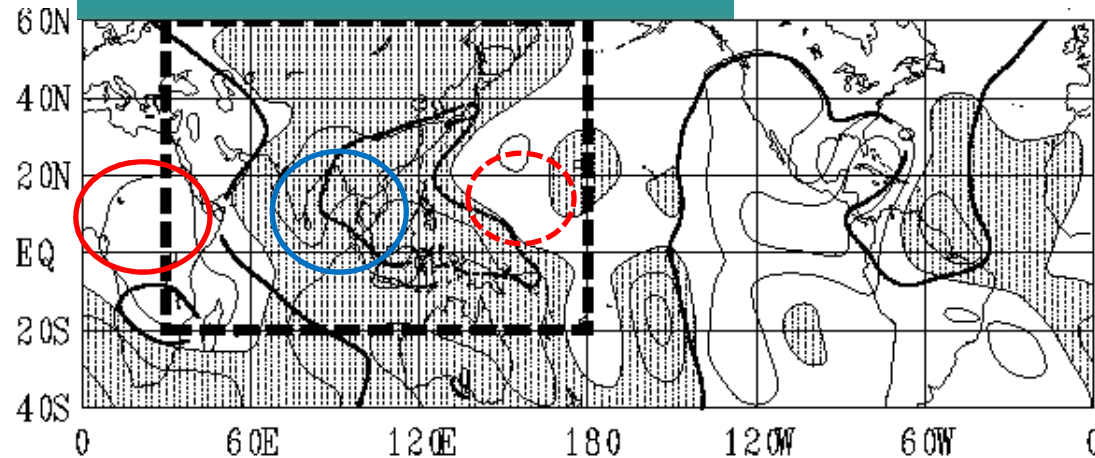
日本を含む広い範囲で正偏差。

海面気圧



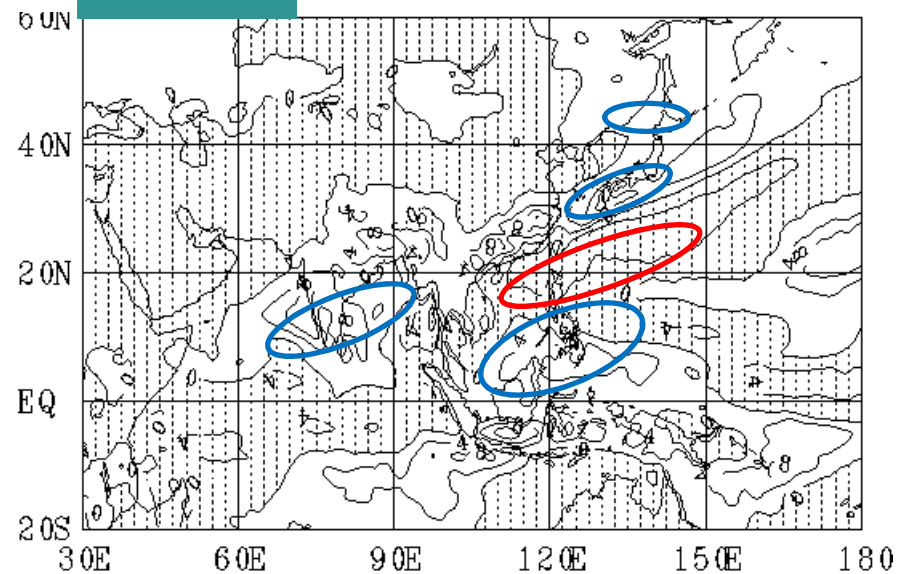
日本の南東海上で高気圧が西への張り出しを強めるため、日本付近は南高北低の気圧配置となり、東・西日本太平洋側を中心に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。沖縄・奄美では、高気圧に覆われる時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



アフリカ付近で上層収束偏差。
インド洋から東南アジアにか
けて上層発散偏差、フィリ
ピンの東では上層収束偏差だ
が、平年からの隔たりは小さ
い。

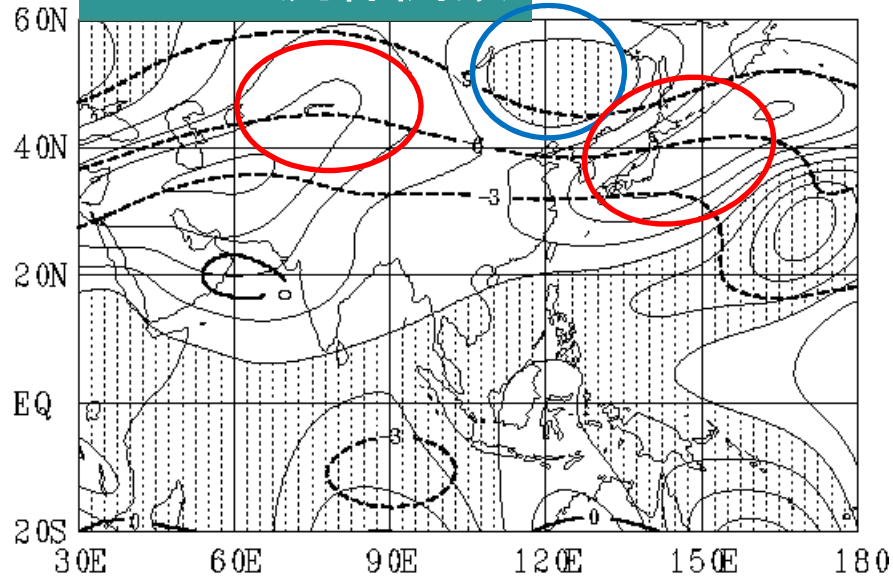
降水量



アラビア海からベンガル湾付近
にかけてと、インドネシア付近、
本州付近で多雨偏差。

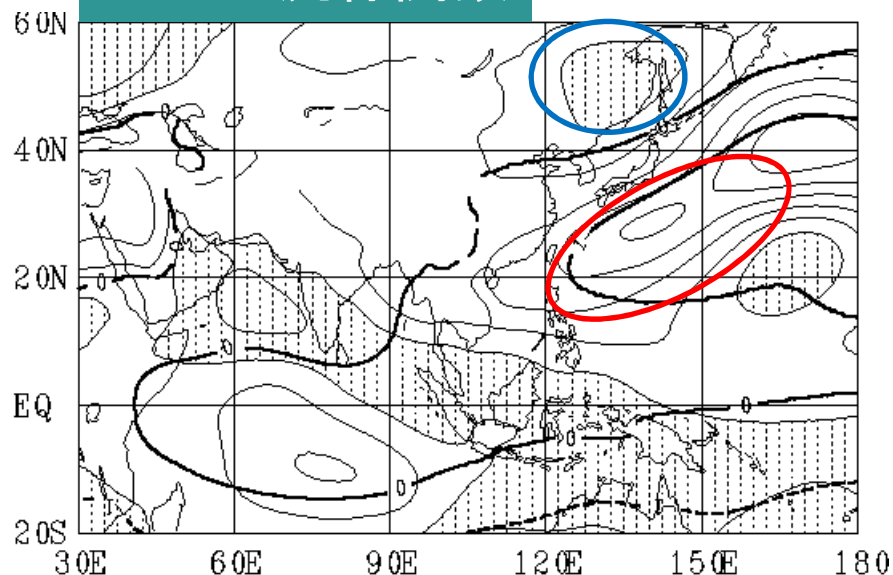
予報資料の解釈 1週目(5/17~5/23)

200hPa流線関数



中央アジア付近では高気圧性循環偏差。また、中国東北区付近に低気圧性循環偏差、日本付近は高気圧性循環偏差。

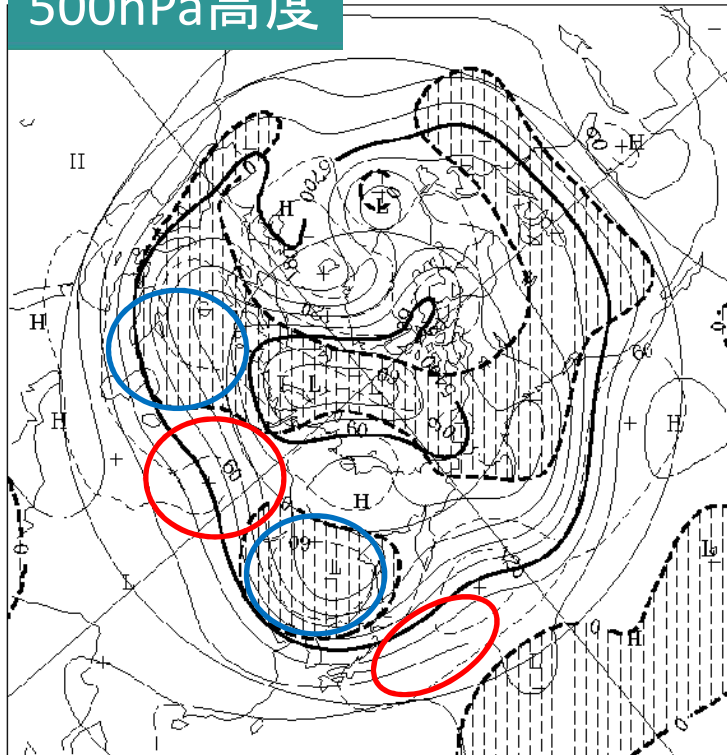
850hPa流線関数



沿海州付近で低気圧性循環偏差、日本の南東海上に高気圧性循環偏差で、北半分は順圧的な鉛直構造だが、南半分は熱帯の対流活動の影響によるもので、傾圧的な鉛直構造となっている。

予報資料の解釈 1週目(5/17~5/23)

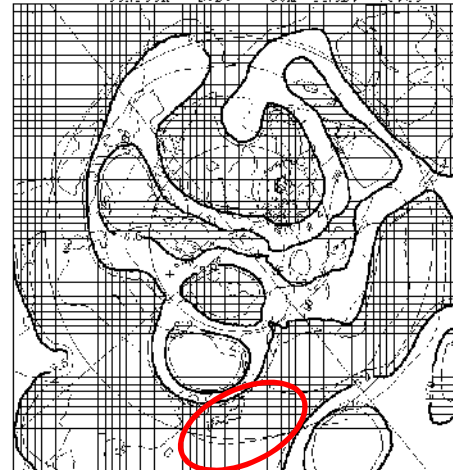
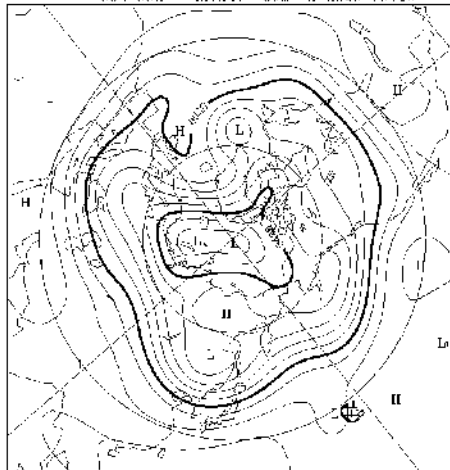
500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

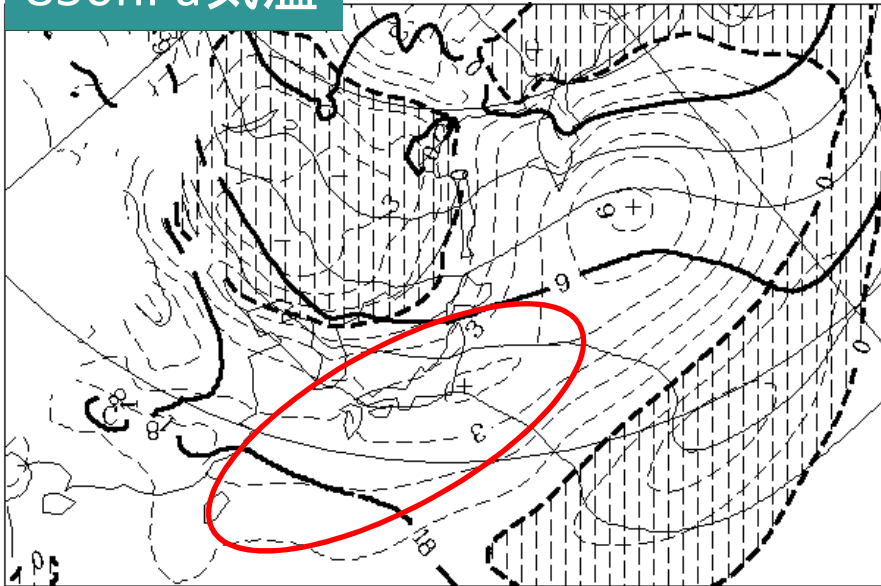
CONTOUR S.D.: 33m 500hPa: 0.25



ロシア西部から寒帯前線ジェット気流に沿った波束伝播の影響で、日本の東海上では正偏差。

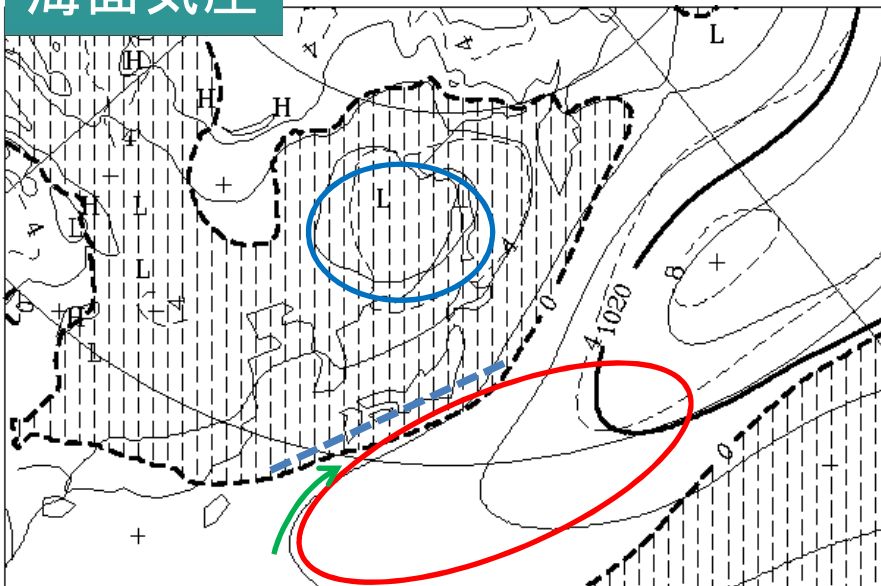
日本付近は、正の高偏差確率50%以上の領域に広く覆われる。

850hPa気温



日本を含む広い範囲で正偏差。

海面気圧



中国東北区付近に低気圧を予測、北日本では低気圧や湿った空気の影響を受けやすい。一方、日本の南東海上にある高気圧の西への張り出しが強まり、東・西日本では、前線や、高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい。一方、沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすいため、湿った空気の影響を受けにくい。

想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、気圧の谷や前線及び湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けにくいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

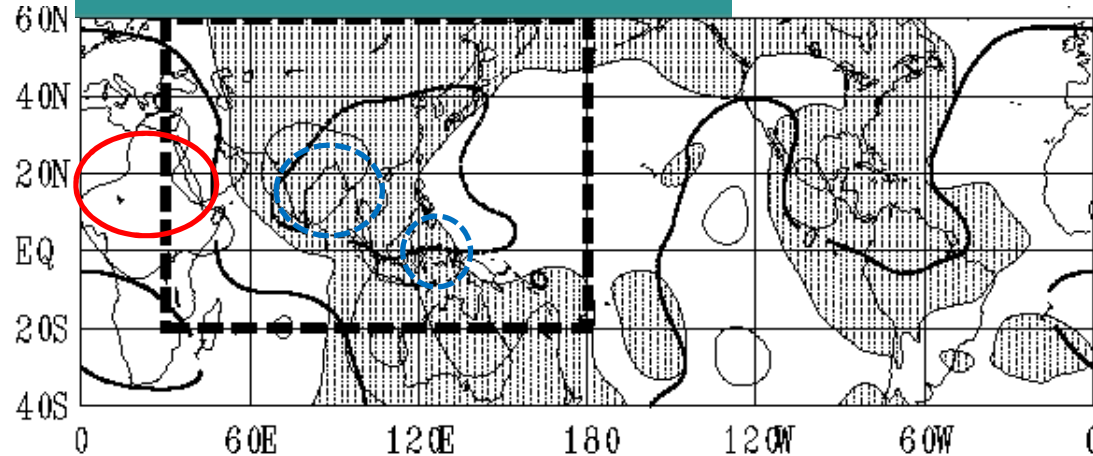
<気温>

全国的に高温。特に最低気温が高く、北・東日本と沖縄・奄美では、かなり高くなる見込み。

<天候>

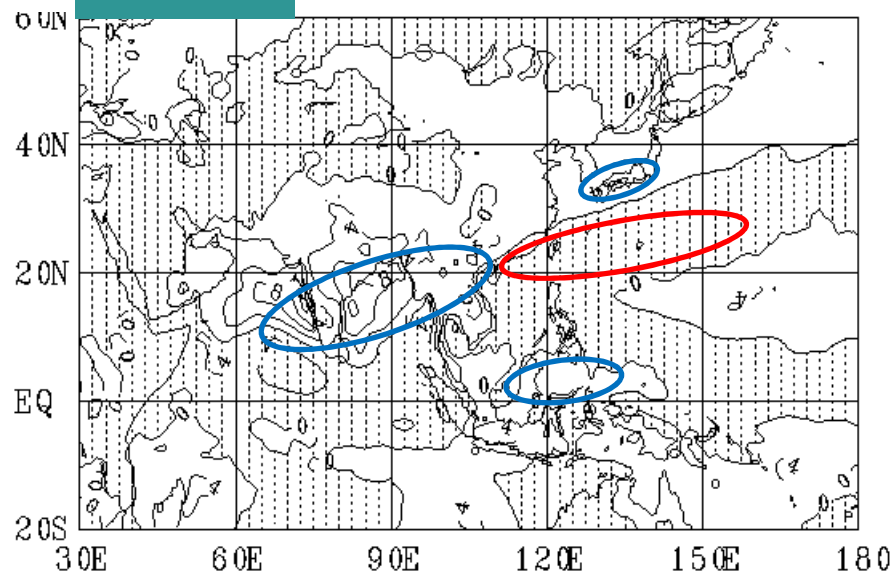
- ・ 北日本では、気圧の谷の影響をやや受けやすいため、やや多雨、湿った空気の影響で寡照傾向。
- ・ 東・西日本では、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、多雨傾向・寡照。
- ・ 沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすいため多照傾向、湿った空気による影響をやや受けにくいため、やや少雨。

200hPa速度ポテンシャル



アフリカ大陸付近で上層収束偏差、インド洋東部から東南アジア付近にかけて、弱いながら上層発散偏差。

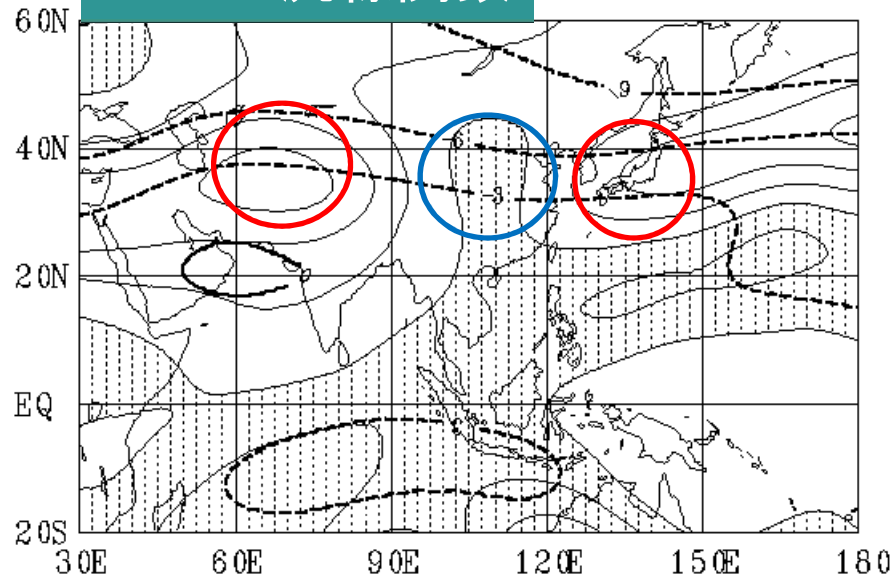
降水量



アラビア海からインドシナ半島付近とインドネシアからフィリピン南部にかけて多雨偏差。一方、南シナ海から日本の南にかけて少雨偏差。日本付近では東・西日本を中心に多雨偏差。

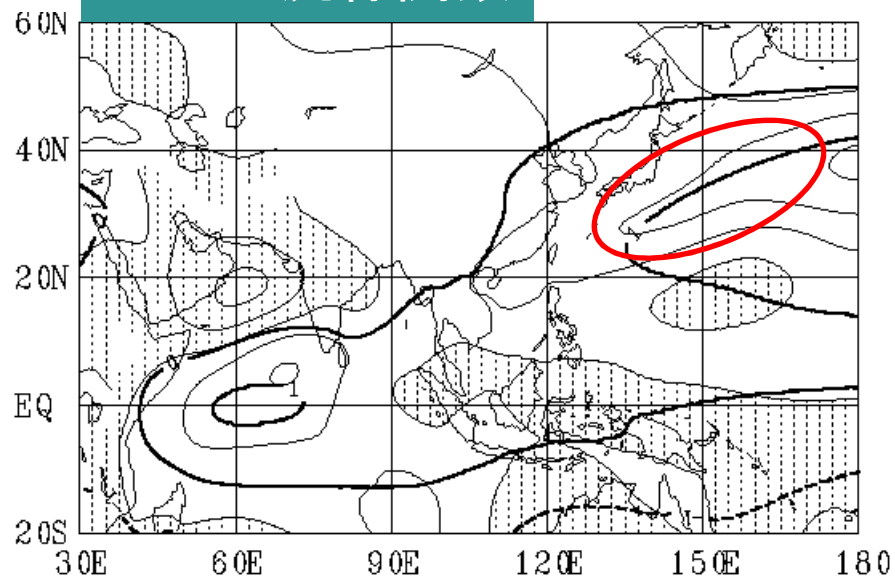
予報資料の解釈 2週目(5/24~5/30)

200hPa流線関数



中央アジア付近に高気圧性循環偏差、華北付近で低気圧性循環偏差、日本付近では高気圧性循環偏差。

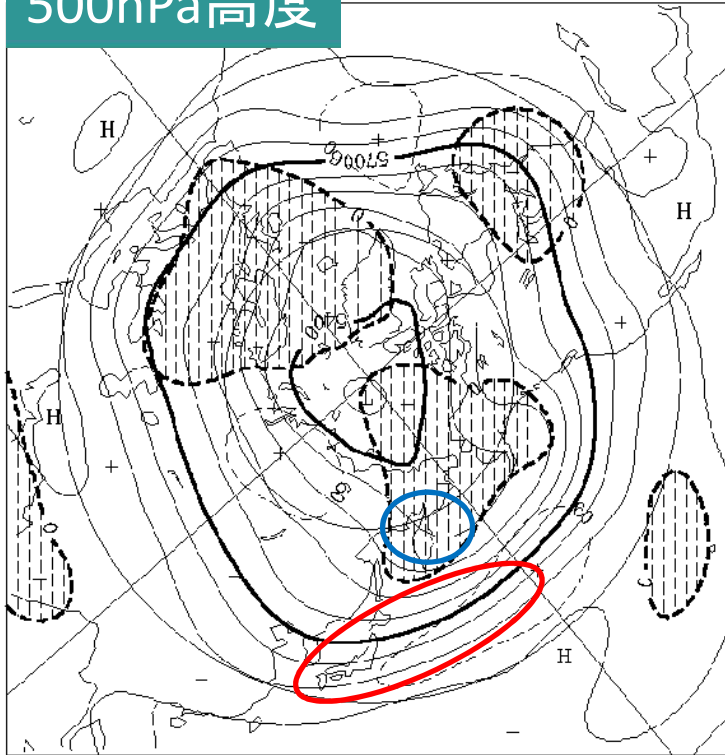
850hPa流線関数



日本の南東海上に高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 2週目(5/24~5/30)

500hPa高度

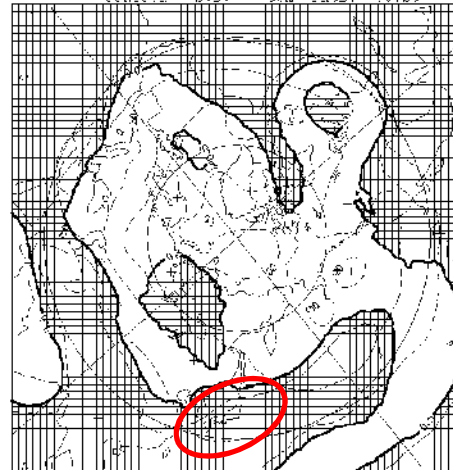
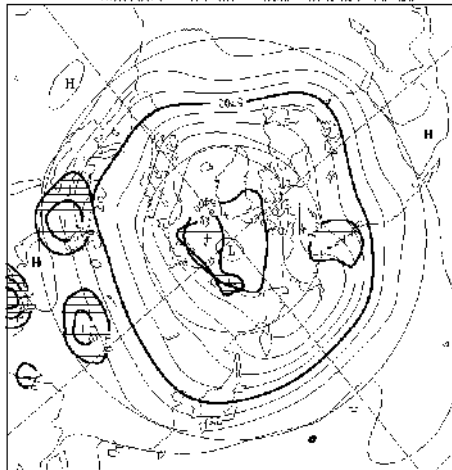


500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 10 20

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

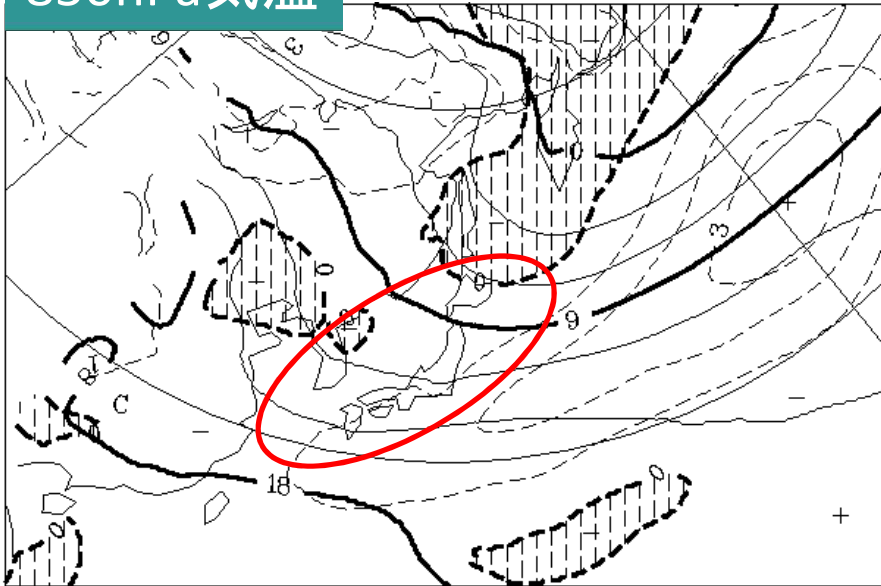
CONTOUR S.D. 30m 20% 10 20



カムチャツカ半島付近で負偏差。日本付近では広い範囲で正偏差。

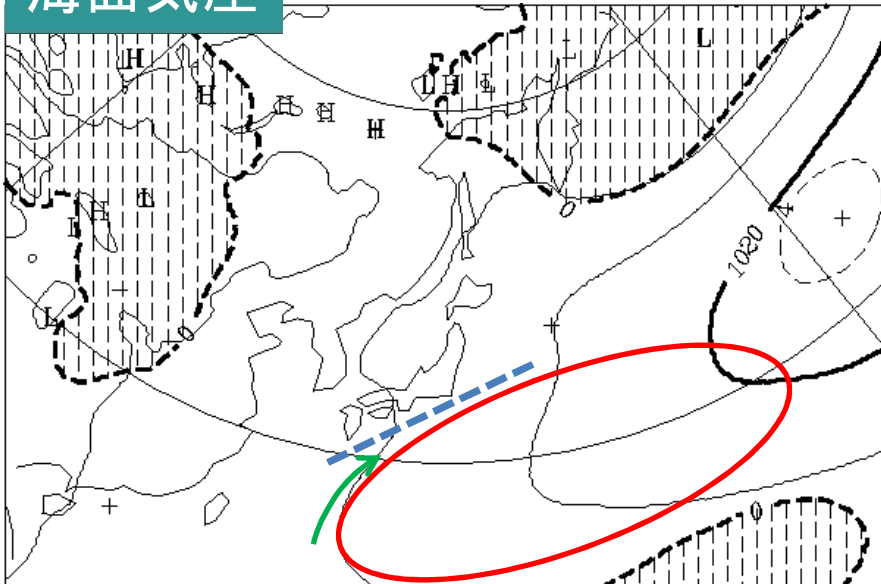
日本付近は、正の高偏差確率50%以上の領域に広く覆われる。

850hPa気温



日本付近は全国的に正偏差。

海面気圧



高気圧は、1週目より弱まるものの日本の南で西への張り出しは続く。本州南岸付近は気圧の谷となっており、東・西日本の太平洋側を中心に前線や高気圧の縁辺を回る湿った空気が流れ込みやすい。

想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<気温>

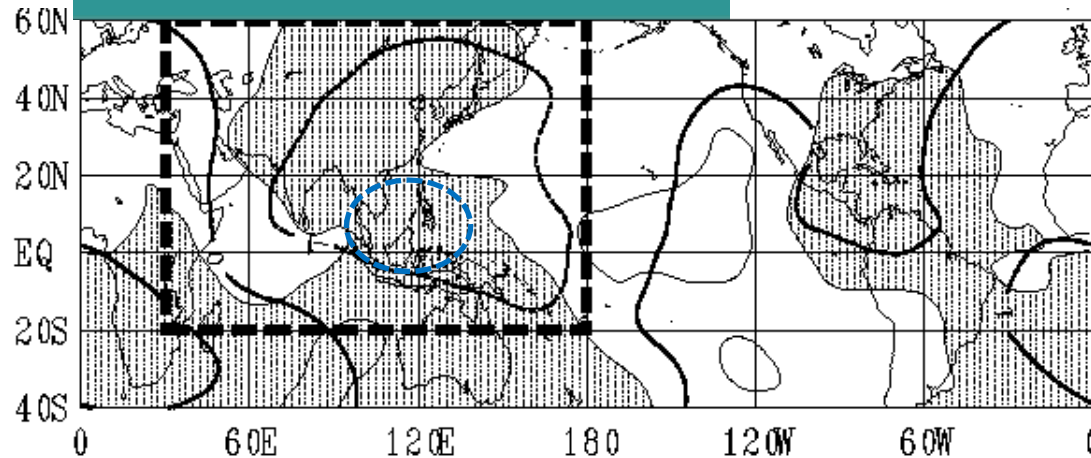
沖縄地方では、暖かい空気に覆われやすいため高温で、かなり高くなる可能性がある。
北・東・西日本では暖かい空気に覆われやすいため、高温傾向。

<天候>

東・西日本日本海側では、前線や湿った空気の影響をやや受けやすいため、やや多雨・やや寡照。東・西日本太平洋側では、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、多雨傾向・寡照傾向。

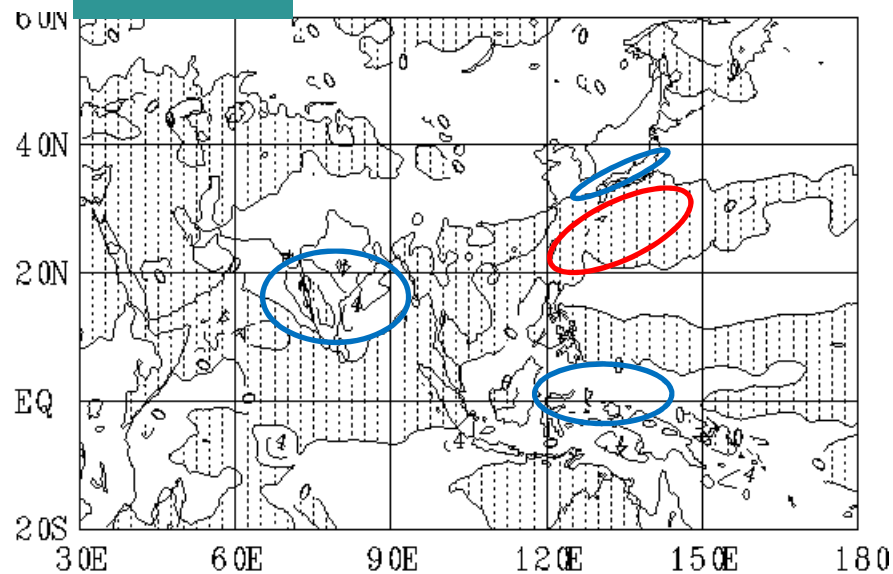
沖縄・奄美では、前線や湿った空気による影響をやや受けにくいため、やや少雨、やや多照。

200hPa速度ポテンシャル



インドネシア付近で上層発散
偏差だが、平年からの隔たり
は小さい。

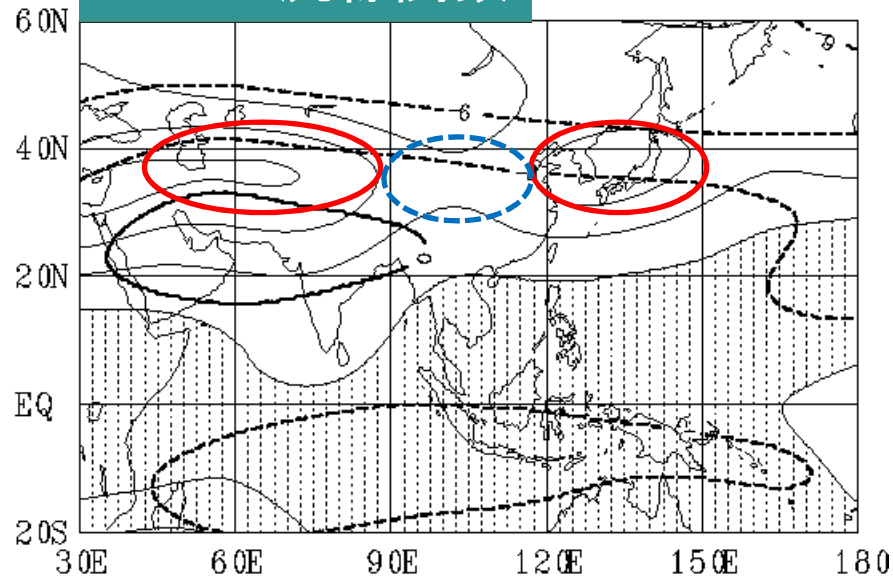
降水量



インド洋北部とインドネシア付
近で多雨偏差。日本付近では、
本州付近を中心に多雨偏差の
一方、日本の南で少雨偏差だ
が、平年からの隔たりは小さい。

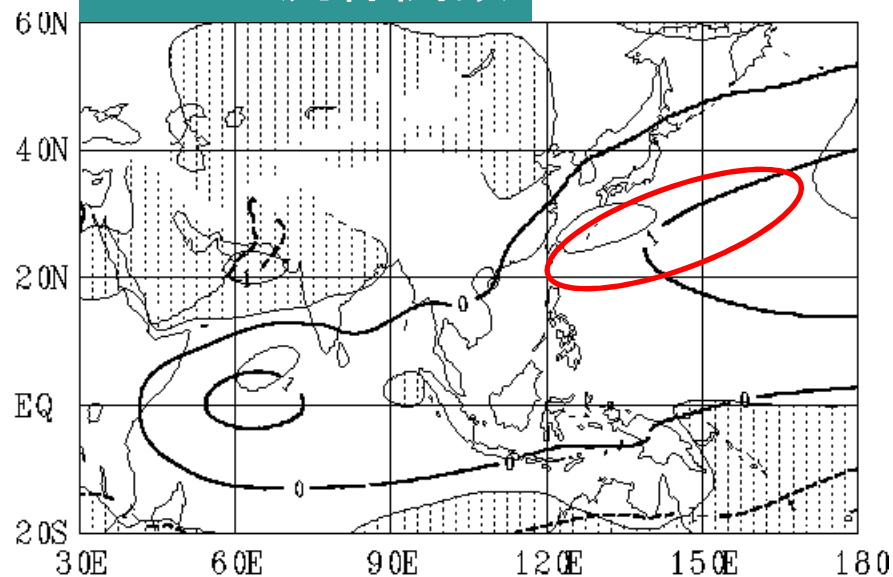
予報資料の解釈 3～4週目(5/31～6/13)

200hPa流線関数



中央アジア付近で高気圧性循環偏差、華北付近で相対的な低気圧性循環偏差、日本付近で高気圧性循環偏差。

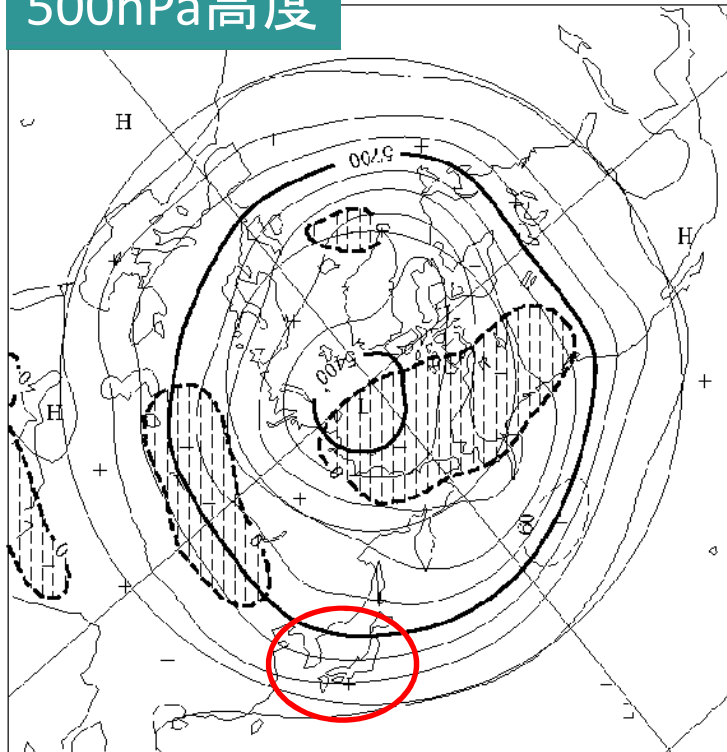
850hPa流線関数



日本の南東海上を中心に高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 3～4週目(5/31～6/13)

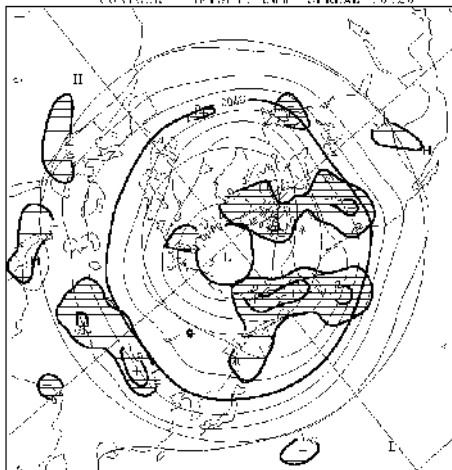
500hPa高度



全国的に正偏差。

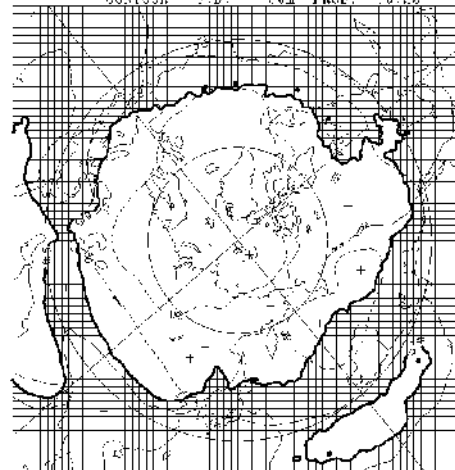
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



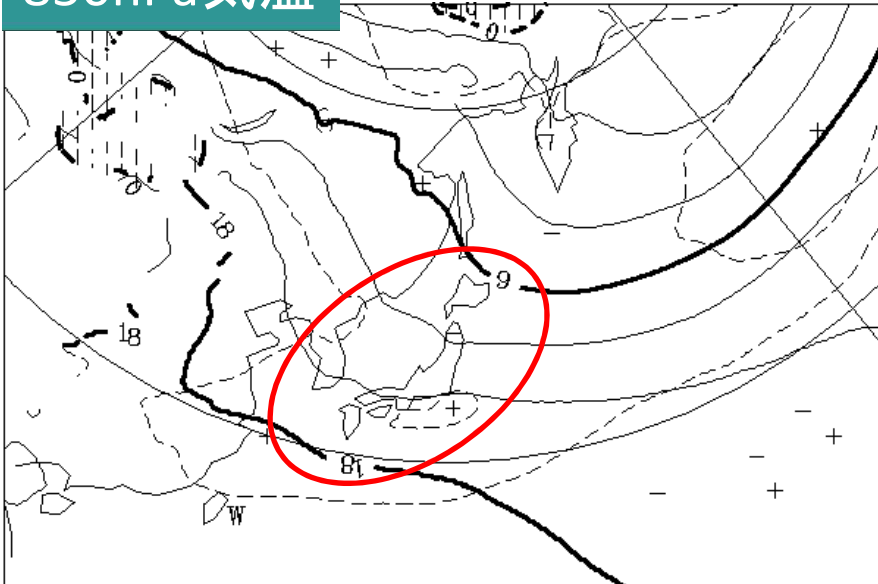
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



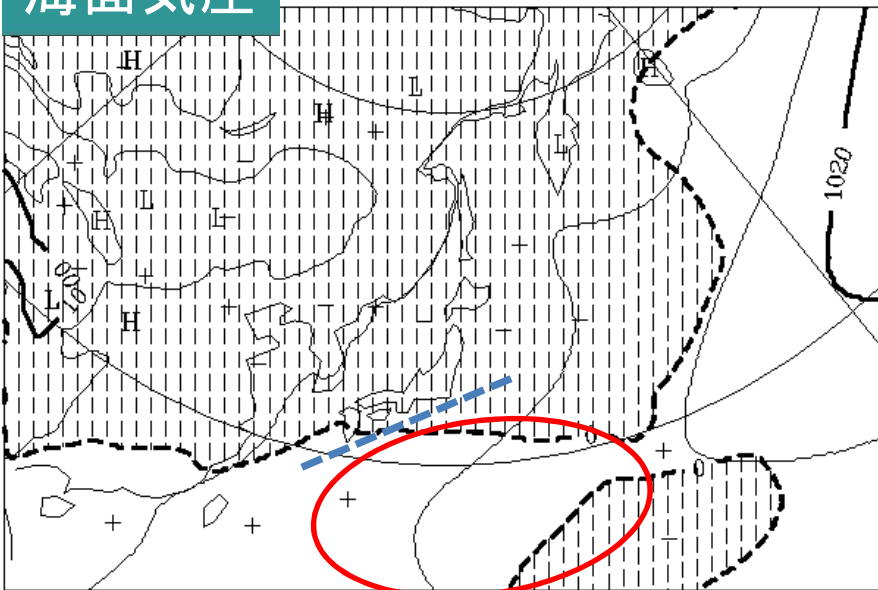
予報資料の解釈 3～4週目(5/31～6/13)

850hPa気温



日本付近は正偏差に覆われ、全国的に暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧



日本付近は負偏差だが、平年からの隔たりは小さい。
なお、熱帯の対流活動の予測に不確実性があるため、日本の南東にある高気圧の西への張り出しの程度を少し割り引く。

想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

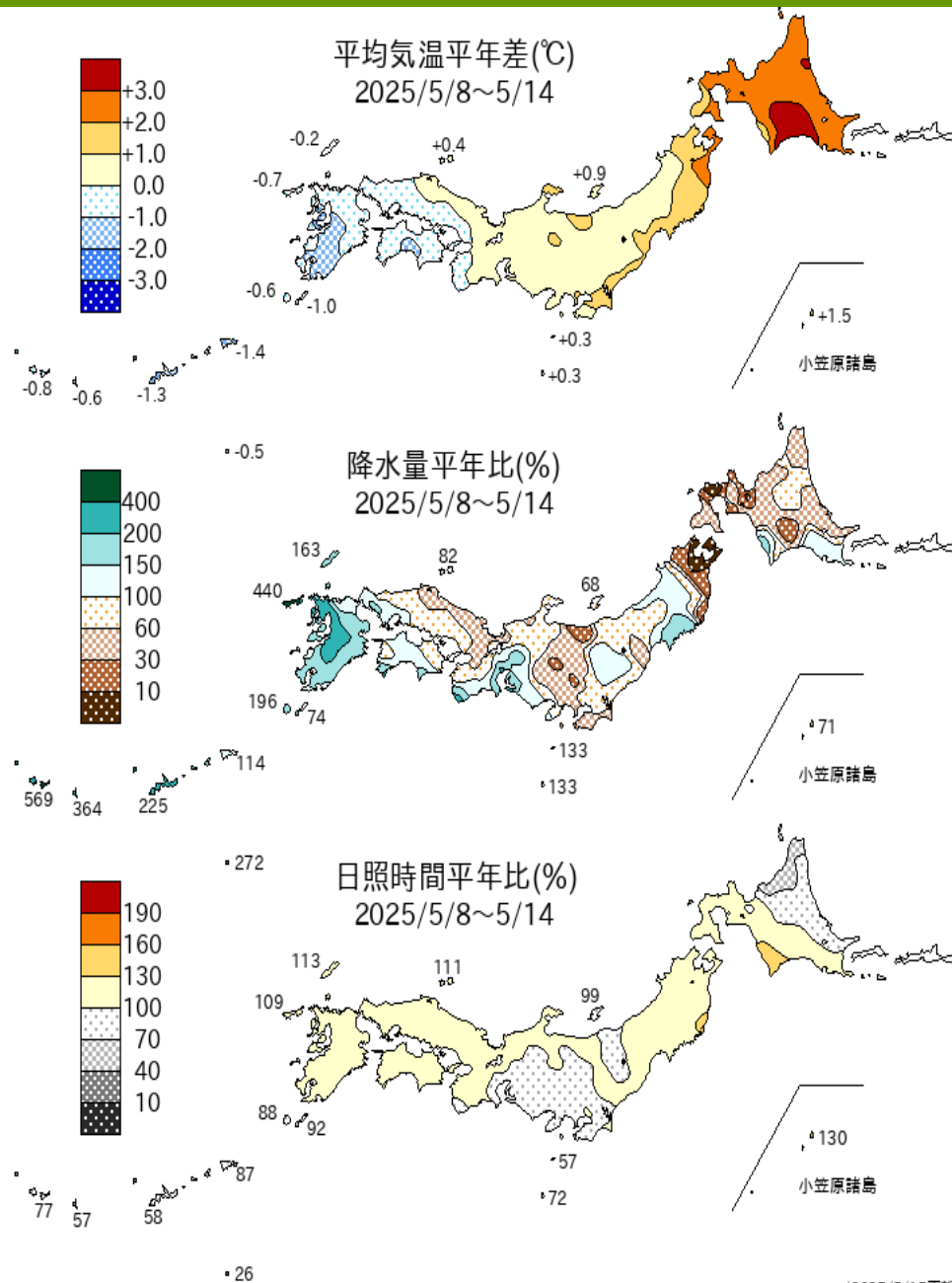
<気温>

全国的に暖かい空気に覆われやすい。

<天候>

全国的に平年と同様の天候を想定。

最近1週間の天候経過



最近1週間(5月8日～5月14日)は、北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わりましたが、9日から10日にかけて、前線を伴った低気圧が発達しながら朝鮮半島から日本海に進んだことから、九州では降水量が平年を大きく上回りました。一方、北日本から東日本では低気圧や前線の影響は小さく、降水量は平年を下回った所が多くなりました。日照時間は、東日本を除いて平年を上回った所が多くなりました。沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、前線に近い先島諸島を中心に大雨となった日がありました。そのため、降水量は平年を大きく上回り、日照時間は平年の6割程度となりました。気温は、暖かい空気に覆われた北日本では、平年を大きく上回り、東日本でも上回りました。一方、西日本と沖縄・奄美では、寒気の影響を受けた日もあり、平年を下回った所が多くなりました。